

## 2021年4月25日 聖餐式説教

本日復活節第4主日は、毎年神学校のために祈り、信施を捧げる日と定められております。私達もこの後代禱のところで、神学校のため、殊に現在の、そして将来の教会の働き人が増し加えられ、与えられますよう、祈りたいと思います。

教会の働き人は人の思いのみではなく、主の召し出しによって与えられます。主のご計画により頼みつつ、働き人を主が必要とされるだけ備えられるのを願わずにはられません。

しばらく前のことになりますが、京都にありますウイリアムス神学館で入学式が行われた際、私は共に出席する機会を与えられました。その時新たに学びのスタートを切る新生は3名でした。入学式の中で神学校のスタッフである司祭様より説教がありました。神学校生活の中心は礼拝である。何事をなすにもチャペルからチャペルへ、礼拝の中で初めて主の働き人として召された自己を認識できるのである。と言われました。また、入学式終了後、神学校の方針として三つの柱、礼拝、生活、学びを大切にしていることが説明されました。神学校は神学の勉強をするところと考える方が多いようです。もちろんそれは正しいことではありますが、それは一部であってすべてではないのです。一般に学校ではよい成績を取ることが重要ですが、神学校では、主なる神の声を聴くこと、主なる神より与えられる使命を果すため、必要なことを学ぶのが重要なことなのです。従って祈ることがまず必要であり、礼拝、生活、学びのバランスが不可欠なこととなるのです。出席者一同、その重要さを思わされました。

また、ウイリアムス神学館は京都教区立の地方神学校であります。日本には神学校が東京の聖公会神学院とウイリアムス神学館の二つがあり、教会の働き人育成に務めています。また、北関東教区でも神学塾が設けられ、働きながら教会の働き人としてふさわしく備える働きが続けられております。

私たちの教区からも将来の教会のため、必要な働き人が与えられることを切に祈ります。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主の願いなさい」。主イエスもこのように言われております。私たちが生き生きとした信仰生活を送ることが出来ますように、そのために働き人が備えられますよう祈り、求めましょう。